

朝日カルチャーセンター 千葉教室 平成二十六年(二〇一四)十月二十四日(金)
 晩秋〜冬の漢詩文

加藤徹

今日は新暦では十月二十四日、旧暦では閏九月一日。

新暦	二十四節気	新暦	二十四節気
十月二十三日	霜降	十二月二十二日	冬至
十一月七日	立冬	一月六日	小寒
十一月二十二日	小雪	一月二十日	大寒
十二月七日	大雪	二月四日	立春

来年(平成二十七年=二〇一五)の旧正月は二月十九日。

冬初出遊

南宋 陸游(一一二五〜一二二〇)

蹇驢渺渺涉煙津 蹇驢 渺渺 煙津を渉る
 十里山村發興新 十里の山村 興を發して新たなり
 青旆酒家黄葉寺 青旆の酒家 黄葉の寺
 相逢俱是画中人 相逢ふは俱に是れ画中の人

【読み方】 トウシヨのシュツユウ。ナンソウ、リクユウ。ケンロビョウビョウ、エンシンをワタる。ジュウリのサンソン、キョウをハッしてアラたなり。セイハイのシユカ、コウヨウのテラ。アイアうはトモにコレガチュウのヒト。

【語注】蹇驢：よたよたと歩むロバ。渺渺：広々とした様子。煙津：霧のかかった渡し場。十里：中国の一里は約0・5キロメートル。青旆：酒屋が看板代わりに掲げる青い旗。

多岐亡羊(タキボウヨウ)・亡羊の嘆(ボウヨウのタン)

『列子』説符第八

楊子之鄰人亡羊。既率其党、又請楊子之豎追之。楊子曰「嘻。亡一羊、何追者之衆」。鄰人曰「多岐路」。既反。問「獲羊乎」。曰「亡之矣」。曰「奚亡之」。曰「岐路之中又有岐焉。吾不知所之。所以反也」。楊子戚然變容、不言者移時、不笑者竟日。

【書き下し文】楊子の鄰人、羊を亡(うしな)ふ。既に其の党を率ゐ、又、楊子の豎(じゆ)を請ひて之を追ふ。楊子曰く「嘻(あゝ)、一羊を亡へるに、何ぞ追ふ者の衆(おお)き」と。鄰人曰く「岐路(きろ)多し」と。既に反(かえ)る。問ふ「羊を獲(え)たるか」と。曰く「之を亡へり」と。曰く「奚(なん)ぞ之を亡へる」と。曰く「岐路の中に又た岐有り。吾れ之(ゆ)く所を知らず。反(かえ)る所以(ゆえん)なり」と。楊子、戚然(せきぜん)として容(かたち)を變へ、言(ものい)はざることを移し、笑はざることを竟(お)ふ。

★年末といえ、赤穂浪士ですね。

四十七士

大塩平八郎(一七九三〜一八三七)

臥薪嘗胆幾辛酸
臥薪嘗胆 幾辛酸
一夜劍光映雪寒
一夜の劍光 雪に映じて寒し
四十七碑猶護主
四十七碑 猶ほ主を護り
凜然冷殺奸臣胆
凜然 冷殺す 奸臣の胆

【読み方】シジュウシチシ。オオシオヘイハチロウ。ガシンショウタン、イクシンサン。イチヤのケンコウ、ユキにエイじてサムシ。シジュウシチヒ、ナオシュをマモリ、リンゼン、レイサツす、カンシンのキモ。

【語注】四十七碑：赤穂義士の三大碑文は、東京・泉岳寺にある亀田鵬斎(かめだほうさい)による赤穂四十七義士碑、江州大石荘(滋賀県大津市南部)にある栗山潜鋒(くりやませんぼう)による忠義碑、兵庫県赤穂市・花岳寺にある藤江熊陽(ふじえゆうよう)による忠義塚を指す。

★江戸時代の後期には、大塩平八郎の洗心洞、広瀬淡窓の咸宜園、緒方洪庵の適塾、吉田松陰の松下村塾など、各地に独特の私塾があらわれました。

桂林荘雑詠示諸生

広瀬淡窓(一七八二〜一八五六)

休道他郷多苦辛
道ふを休めよ 他郷苦辛多しと
同袍有友自相親
同袍友有り 自ら相親しむ
柴扉曉出霜如雪
柴扉 曉に出づれば 霜雪の如し
君汲川流我拾薪
君は川流を汲め 我は薪を拾はん

【読み方】ケイリンソウザツエイ、シヨセイにシメス。ヒロセタンソウ。イウをやめよ、タキヨウ、クシンオオしと。ドウホウ、トモアリ、オノズカラアイシタしむ。サイヒ、アカツキにイずれば、ユキ、シモのゴトし。キミはセンリュウをクメ、ワレはタキギをヒロわん。

【語注】桂林荘：漢学者である広瀬が現在の大分県日田市に開いた私塾。後の「咸宜園(かんぎえん)」の前身。同袍：同じ「袍」(綿入れの着物)を着る仲間。「同僚」「同窓」などの語と同じ構造の言葉。柴扉：小さな雑木で作った、粗末な扉。

★各地の私塾の中でも、玉木文之進(たまきぶんのしん)が開き、吉田松陰が講義した松下村塾は、特に有名です。

来年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」のヒロインは、吉田松陰の妹・杉文(すぎふみ)。後の楯取美和子^{II}かとりみわこ。一八四三〜一九二二で、女優の井上真央が演じます。文の最初の夫は、松蔭の弟子であった久坂玄瑞でした。

失題

久坂玄瑞(一八四〇〜一八六四)

皇国威名海外鳴	皇国の威名	海外に鳴り	
誰か甘んぜん	誰か甘んぜん	烏帽	犬羊の盟
廟堂願賜尚方劍	廟堂	願はくは賜へ	尚方の劍
直斬將軍答聖明	直ちに將軍を斬りて	聖明に答へん	

【読み方】コウコクのイメイ、カイガイにナリ、タレかアマンぜん、ウボウ、ケンヨウのメイ。ビョウドウ、ネガわくわタマえ、ショウホウのケン。タダちにショウウグンをキりて、セイメイにコタえん。

【語注】烏帽：烏帽子。ここでは日米和親条約を結んだ幕府の役人を指す。廟堂：ここでは京都の朝廷を指す。尚方劍：前漢の成帝の忠臣・朱雲(折檻)の故事で有名が奸臣を斬るために「尚方斬馬劍」の下賜を願った故事をふまえる。聖明：京都の天皇を指す。

久坂玄瑞は、元治元年(一八六四)の「蛤御門の変」(禁門の変)で自決。文は二十二歳の若さで未亡人となり、苦労を重ねます。その後、文は明治になってから、やはり松蔭の弟子であった小田村伊之助(後に楯取素彦^{II}かとりもとひこ、と改名)と再婚します。

小田村にとつても、文は二番目の妻でした。彼の最初の妻は、松蔭の妹で文の姉にあたる寿(ひさ)です(後に死別)。寿は小田村とのあいだに二男をもうけました。

蛤御門の変のあと、長州藩では、幕府への恭順派が一時的に政權を握ります。藩内の倒幕派は弾圧され、小田村の兄も犠牲となりました。小田村自身も、その年の十二月に入牢が決まります。死を覚悟した小田村は、寿に二人の息子を託し、次の漢詩を詠みました。

無題

楯取素彦(一八二九〜一九二二)

勤儉十年勞家政	勤儉十年	家政に勞し	
裁縫紡績幾營為	裁縫紡績	幾營為	
糟糠未報阿卿德	糟糠	未だ報いず	阿卿の徳に
又向獄中賦別離	又	獄中に向ひて別離を賦す	

【読み方】キンケン、ジュウネン、カセイにロウシ、サイホウボウセキ、イクエイイ。ソウコウ、イマだムクいず、アケイのトクに。マタ、ゴクチュウにムカいてベツリをフス。

【語注】糟糠：糟糠の妻。阿卿：英語の「ダーリン」にあたる漢語。

(20141024)